

季刊マーメイド

逗子市立図書館報
第18号
2017年11月1日発行
逗子市立図書館
逗子市逗子4-2-10
046(871)5998
<https://www.library.city.zushi.lg.jp>

戦時下、逗子の 海軍工廠と少女たち

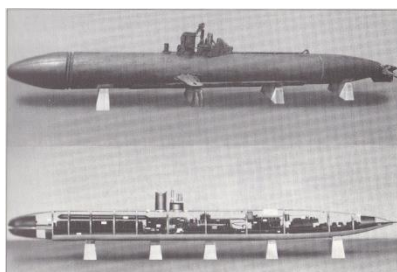


逗子町、横須賀に強制合併

日本中が戦争一色に染まっていた昭和18年4月1日、逗子町、浦賀町、長井町、大楠町、下北浦村、武山村の6町村が横須賀に強制合併されました。それは戦争の拡大とともに三浦半島全域に広がりを見せた軍の施設運営を円滑にするための海軍(横須賀鎮守府)の意向によるものです。アールデコ調の瀟洒なホテルのあった湘南の別荘地逗子は、いっきに戦争の波に呑み込まれていきます。

合併前の昭和16年頃、桜山3丁目、6丁目周辺には横須賀鎮守府長官邸をはじめとする海軍住宅が次々と建設され、軍人とその家族

が入居しました。久木松葉・大畑前に造られた海軍工員寮にはすでに約4000人の工員が入居していましたが、合併後沼間にはさらに8000人収容の工員宿舎が造られました。宿舎のほかにも、軍需工場や海軍工廠の施設が次々と造られ、逗子の町は臨戦態勢の強化とともに軍人と職工であふれかえり、一時的ではありますが、急激な人口増となりました。



横須賀の海軍工廠で製造されていた人間魚雷「海龍」。
『娘たちのネービー・ブルー』より

逗子の主な軍事施設

逗子には海軍工廠のほか、陸軍の弾薬庫、民営の軍事工場など小さな町に実に多くの軍事施設ができました。その主な施設は以下のようなものでした。

桜山（警察署の斜め後ろあたり）

パラシュート工場

久木（1・2・6丁目から柏原）

海軍工廠造兵部久木分工場

（光学関係）

海軍工廠造兵部久木火工工場

久木大池

火薬庫

池子（現在の米軍住宅地）

帝国陸軍弾薬庫

披露山

軍の基地（兵舎、兵器庫、高角砲台、本部）

海軍工廠は、戦争末期の昭和19年頃、本土への襲撃に備え、軍需庫・工場などを地下に疎開させる計画を実行していきました。沼間、神武寺裏参道、池子、久木、桜山は、かなりの広範囲で地中工場・地下倉庫・防空壕が掘られ、地下都市のような様相を呈していたようです。軍事機密ということもあり、あまり詳しい資料は残されていませんが、当館所蔵の『戦時下逗子の朝鮮人労働者』や『明治大正昭和 年表 逗子の三代史』には、疎開計画の場所やその規模が記されています。



昭和20年頃の久木火工工場の配置図。現在の久木中学校から池子へ繋がる一带に軍の施設があったことがわかる。

図は『海鳴りの響きは遠く』より

学徒動員



学徒動員は太平洋戦争の労働力不足を補うため、昭和13年公布の国家総動員法に基づいて実施され、戦争の深刻化とともに拡大してきました。昭和19年には学徒労働令が出されると、中等学校以上のほぼ全員が、農業や軍需工場での労働に動員されることになりました。これは昭和20年8月の敗戦まで日本中の学生が、学ぶ時間を放棄させられたことを示しています。現在では考えられないことですが、軍事一色の時代、多くの学生がこの事実疑問を持つことなく自らすすんで国のために身を捧げたの



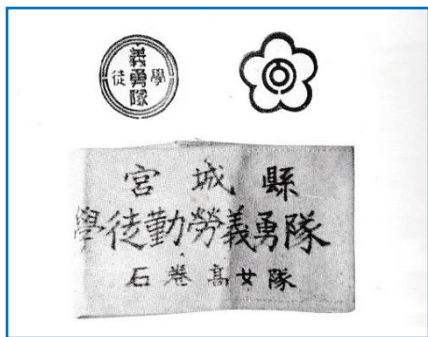
昭和20年2月25日、遠子。支給された作業服を着た5号室の生徒。『海鳴りの響きは遠く』表紙より

です。逗子の学生たちも海軍工廠造兵部やパラシュート工場のほか県内各所の軍事工場に配属されました。また、親元から離れ多くの女子学生が逗子の海軍工廠施設で働いていて、その多くは宮城、福島、岩手など東北からの学生でした。

宮城県第一高女の『海鳴りの響きは遠く』と宮城県石巻高女の『娘たちのネービー・ブルー』は逗子での学徒動員の記録です。実際に逗子に動員された少女たちの当時の日記や記憶を基に、戦後40年ほど経つてまとめられ、戦時下の女生たちの思いやその生活が実に細やかに描かれています。

親の反対を押し切って応召したこと、家を出てから丸一日以上かけてやつとの思いで逗子に到着したこと、桜山や沼間の工員寮で先生や友と寝食を共にしながら毎日ぬかるんだ道を配属先まで歩いたこと、寮ではどんな物を食べていたかなどについて書かれています。また、休日に鎌倉や横須賀に行つたこと、配属された先によって事

務仕事から兵器作りまで様々な作業に従事していたことや、警戒警報が鳴り無我夢中で逃げたことなど、一人ひとりの小さなエピソードが重なり合うことで、戦争によって穏やかな日常を奪われながらも、励ましあい必死に生きた少女たちがこの逗子にも確かに存在したことを、よりリアルに感じるこ



腕に義勇隊の腕章、胸に白梅の校章と義勇隊バッチをつけていた。『娘たちのネービー・ブルー』より

ことば

海軍鎮守府（かいぐんちんじゅふ）
日本海軍の根拠地。横須賀のほか呉、佐世保、舞鶴がある。

海軍工廠（かいぐんこうしょう）
艦船、航空機、兵器、弾薬等を開発製造する海軍直営の軍需工場。

参考資料

- ・『海鳴りの響きは遠く―宮城県第一高女学徒勤労働員の記録―』
- 神谷恵美子監修 宮城県第一高女四十七回生著 草思社 P.916
- ・『娘たちのネービー・ブルー―宮城県石巻高等女学校昭和20年卒業学徒勤労働員横須賀白梅隊―』
- 大住恭子著 P.373
- ・『戦時下逗子の朝鮮人労働者』
- 逗子市朝鮮人労働調査委員会編集

逗子市 P.213.7

・『歴史トーク 湘南・葉山 vol.4』

葉山近現代史を語る会

P.213.7

・『明治大正昭和年表―逗子の三代史―』手帳の会 P.213.7

・『激動期の日本 逗子を語る』

元逗子に市立博物館をつくる会

P.213.7

が

・『学徒勤労働員の記録―戦争中の少年・少女たち―』

神奈川の学徒勤労働員を記録する

会編 高文研 P.210.7

・『神奈川の学徒勤労働員―県内・

県外勤員学校 三百校の記録 亡

くなった百五名の学徒、教職員の

記録―』神奈川の学徒勤労働員を

記録する会著 26.A

・『神奈川県学徒勤労働員の記録 白い

風景』塩谷左登子著 26.A

シ